

3. とうもろこし

<飼料用>

- (1) **DK212** (系統名 SH2112) 1996年
登録番号：(北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第53号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのデカルブジェネティクスコーポレーション社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1991年に雪印種苗株式会社が導入し、1993年より「SH2112」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並で、「ワセホマレ」並か1～2日遅い。収穫時熟度は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並である。総体の乾物率は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より高い。熟期は早生の中に属する。
- 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」より強く、「ワセホマ

レ」よりやや強い。

- 発芽は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並かやや遅い。初期生育は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」よりやや劣る。
- 乾総重及び推定TDN収量は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より多い。推定乾物中TDN割合は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並かやや高い。
- 稈長は「ダイヘイゲン」よりやや低く、「ワセホマレ」並かやや低い。着雌穂高は「ダイヘイゲン」よりやや低く、「ワセホマレ」よりやや高い。雌穂について、年次によっては、包葉先端から子実が顕著に露出する。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、「ワセホマレ」並かやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ワセホマレ」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝、網走及び根釧、道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 生 期 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	D K 2 1 2	1.7	8. 5	0.0	黄 初	1,179	862	104	28.5	73.0	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.0	8. 4	4.3	黄初～中	1,149	826	100	27.1	71.9	
	ワセホマレ	1.4	8. 4	2.9	黄初～中	994	710	86	27.1	71.4	
北 見 農 試	D K 2 1 2	2.4	8.11	0.6	糊 後	1,305	939	110	27.5	71.8	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.7	8.10	3.8	糊 後	1,191	852	100	26.0	71.1	
	ワセホマレ	1.5	8. 9	1.7	糊 後	1,165	826	97	26.0	70.4	
上 川 農 試 (土 別)	D K 2 1 2	3.3	8. 5	0.0	糊 後	1,445	1,020	123	30.1	70.6	1993
	ダイヘイゲン	2.0	8. 4	4.3	黄 初	1,177	827	100	27.1	70.3	
上 川 農 試 (比 布)	D K 2 1 2	2.4	7.24	0.9	黄 後	1,599	1,140	115	28.3	71.5	1994～1995
	ダイヘイゲン	2.0	7.24	8.3	黄 後	1,387	992	100	27.3	71.6	
根 釧 農 試	D K 2 1 2	1.6	8.22	3.0	糊 後	1,045	739	100	27.5	70.1	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.0	8.21	23.2	糊 後	1,042	737	100	27.5	70.4	
	ワセホマレ	1.1	8.20	17.4	糊 後	981	690	94	27.5	70.0	
天 北 農 試	D K 2 1 2	2.9	8.19	3.0	糊 後	1,084	778	111	25.8	70.6	1993～1995
	ダイヘイゲン	1.9	8.20	6.2	糊 中	985	700	100	24.0	70.2	
	ワセホマレ	2.1	8.21	4.3	糊 中	990	702	100	24.2	69.6	

参照 1) 北海道農政部編，平成8年普及奨励ならびに指導参考事項，27～29 (1996)。

(2) **ピヤシリ85** (系統名 SH1302) 1996年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準北海道
交第54号

セールスポイント

耐倒伏性がやや強く、すす紋病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴：本品種は、雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1993年より「SH1302」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」並か1～2日早い。収穫時熟度及び総体の乾物率は、「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」

よりやや強い。

3. 発芽及び初期生育は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」並かやや多く、「キタアサヒ」並である。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」よりやや高い。
5. 稈長は「ヘイゲンミノリ」並かやや高く、「キタアサヒ」よりやや低い。着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」よりやや高く、「キタアサヒ」よりやや低い。雌穂について、年次によっては、包葉先端から子実が顕著に露出する。
6. すす紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ピ ヤ シ リ 85	1.7	8. 9	0.0	糊後～黄初	1,241	890	101	25.7	71.5	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.6	8. 8	0.1	糊後～黄初	1,229	883	100	26.6	71.7	
	キ タ ア サ ヒ	1.6	8.10	2.0	糊後～黄初	1,293	911	103	26.2	70.1	
北 見 農 試	ピ ヤ シ リ 85	2.2	8.15	0.1	糊 中	1,265	902	104	26.3	71.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.15	3.3	糊 中	1,219	866	100	26.8	70.9	
	キ タ ア サ ヒ	2.2	8.16	0.3	糊 中	1,249	874	101	25.1	69.6	
上 川 農 試 (土 別)	ピ ヤ シ リ 85	3.8	8. 9	0.0	糊 後	1,352	943	110	26.1	69.7	1993
	ヘイゲンミノリ	2.8	8. 8	0.0	糊後～黄初	1,233	855	100	25.7	69.3	
	キ タ ア サ ヒ	2.8	8.10	0.0	黄 中	1,332	924	108	26.6	69.4	
上 川 農 試 (比 布)	ピ ヤ シ リ 85	2.2	7.26	0.0	黄中～後	1,573	1,112	101	26.3	70.8	1994～1995
	ヘイゲンミノリ	2.4	7.26	1.9	黄 後	1,560	1,106	100	27.1	71.1	
	キ タ ア サ ヒ	2.4	7.26	3.6	黄 後	1,572	1,116	101	28.9	71.1	

注) 上川農試の「キタアサヒ」は他の2品種と収穫期が異なる。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 30-32 (1996).

(3) **LG2290** (系統名 HE9138) 1996年

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第55号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1991年

に雪印種苗株式会社が導入し、1993年より「HE9138」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」並か1～2日早い。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並で「キタアサヒ」よりやや高い。

熟期は早生の晩に属する。

- 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」よりやや強い。
- 発芽は「ヘイゲンミノリ」並かやや遅く、「キタアサヒ」並である。初期生育は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」並である。
- 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」及び「キタアサヒ」より多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並で、「キタアサヒ」よりやや高い。
- 稈長は「ヘイゲンミノリ」よりやや高く、「キタア

サヒ」並である。着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く、「キタアサヒ」よりやや低い。

- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並かやや強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	L G 2 2 9 0	1.7	8. 9	0.3	糊後～黄初	1,348	962	115	26.2	71.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.7	8. 8	0.1	糊後～黄初	1,157	839	100	25.5	72.2	
	キ タ ア サ ヒ	1.7	8. 9	2.3	糊後～黄初	1,278	899	107	25.5	70.0	
北 見 農 試	L G 2 2 9 0	2.7	8.16	0.0	糊 中	1,423	1,003	116	26.0	70.1	1993～1995
	ヘイゲンミノリ	1.9	8.15	3.3	糊 中	1,219	866	100	26.8	70.9	
	キ タ ア サ ヒ	2.2	8.16	0.3	糊 中	1,249	874	101	25.1	69.6	
上 川 農 試 (土 別)	L G 2 2 9 0	2.8	8. 9	0.0	黄中～後糊	1,493	1,070	125	29.7	71.7	1993
	ヘイゲンミノリ	2.8	8. 8	0.0	後～黄初	1,233	855	100	25.7	69.3	
	キ タ ア サ ヒ	2.8	8.10	0.0	黄 中	1,332	924	108	26.6	69.4	
上 川 農 試 (比 布)	L G 2 2 9 0	2.2	7.26	0.0	黄 後	1,844	1,326	120	29.8	72.0	1994～1995
	ヘイゲンミノリ	2.4	7.26	1.9	黄 後	1,560	1,106	100	27.1	71.1	
	キ タ ア サ ヒ	2.4	7.26	3.6	黄 後	1,572	1,116	101	28.9	71.1	

注) 上川農試の「ヘイゲンミノリ」は他の2品種と収穫期が異なる。

参照 1) 北海道農政部編，平成8年普及奨励ならびに指導参考事項，33－35（1996）。

(4) DK474（系統名 PP1460）1996年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第56号

セールスポイント

やや多収で，耐倒伏性がやや強い晩生品種である。

来歴：本品種は，アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交一代雑種である。カネコ種苗株式会社が導入し，1993年より「PP1460」の系統名で各種の試験を行い，1996年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「P3732」よりやや遅く，「3540」より早い。収穫時熟度は「P3732」よりやや遅れ，「3540」と同程度である。総体の乾物率は「P3732」並か高く，「3540」より高い。熟期は晩生の早に属する。

- 耐倒伏性は「P3732」と同程度で「3540」よりやや弱い。

- 発芽及び初期生育は「P3732」及び「3540」と同程度である。

- 乾総重及び推定TDN収量は「P3732」よりやや多く，「3540」より少ない。推定乾物中TDN割合は「P3732」と同程度で，「3540」より高い。

- 稈長は「P3732」並か低く，「3540」より低い。着雌穂高は「P3732」及び「3540」より低い。

- すす紋病抵抗性は「3540」より強く，「P3732」と同程度である。ごま葉枯病抵抗性は「P3732」及び「3540」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部，南部及び道南の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準ずるが，ごま葉枯病に弱いので多発する圃場での作付を避ける。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	D K 4 7 4	2.0	8.12	1.6	黄 中	1,829	1,325	107	29.8	72.4	1993～1995
	P 3 7 3 2	2.5	8.10	0.0	黄 中	1,689	1,233	100	27.9	72.9	
	3 5 4 0	2.2	8.15	0.0	黄中～後	1,924	1,379	112	27.4	71.7	
道 南 農 試	D K 4 7 4	2.8	8. 6	3.6	黄初～中	1,866	1,328	100	33.4	71.1	1993～1995
	P 3 7 3 2	1.1	8. 5	5.7	黄 中	1,862	1,327	100	31.3	71.2	
	3 5 4 0	1.7	8. 9	2.4	黄初～中	2,015	1,403	105	29.3	69.5	
滝 川 畜 試	D K 4 7 4	1.1	8. 9	1.3	黄 中	1,723	1,240	105	27.2	71.9	1993～1995
	P 3 7 3 2	1.4	8.10	0.9	黄 中	1,639	1,176	100	26.6	71.7	
	3 5 4 0	1.7	8.14	0.7	黄 中	1,877	1,329	113	24.5	70.8	

注) 道南農試の倒伏は、1993年～1994年の2か年の数値(1995年は全倒伏のため除外)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-37 (1996)。

(5) DK401 (系統名 DK401) 1996年

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交
第57号

セールスポイント

多収な中生品種である。

来歴: 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。カネコ種苗株式会社が導入し、1992年より「DK401」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「キタユタカ」より遅く、「3790」よりやや遅い。「P3732」よりやや早い。収穫時熟度は「キタユタカ」「3790」よりやや遅れ、「P3732」並である。総体の乾物率は「キタユタカ」並か高いが、「3790」並かやや低く、「P3732」より高い。熟期は中生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「キタユタカ」より強く「3790」「P3732」よりやや弱い。
3. 発芽は「キタユタカ」及び「P3732」よりやや遅い。初期生育は「キタユタカ」及び「P3732」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「キタユタカ」より多く、「3790」並かやや多いが、「P3732」並かやや少ない。推定乾物中TDN割合は「キタユタカ」より高く、「3790」及び「P3732」よりやや高い。
5. 稈長は「キタユタカ」「3790」より高く、「P3732」並かやや高い。着雌穂高は「キタユタカ」より高いが、「3790」並かやや低い。「P3732」より低い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」並かやや強く、「3790」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」及び「3790」より弱い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央中部、南部及び道南である。一般栽培に準ずるが、ごま葉枯病に弱いので多発する圃場での作付を避ける。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	D K 4 0 1	3.0	8. 9	4.6	黄初～中	1,573	1,150	108	27.8	73.1	1992～1994
	キ タ ユ タ カ	2.0	8. 6	7.1	黄 中	1,473	1,060	100	26.6	72.0	
	3 7 9 0	2.3	8. 8	0.9	黄 中	1,572	1,139	107	28.3	72.5	
	P 3 7 3 2	2.9	8.11	0.0	黄 中	1,598	1,165	110	27.3	72.9	
道 南 農 試	D K 4 0 1	2.4	8. 7	3.4	黄中～後	1,818	1,301	119	33.8	71.6	1992～1994
	キ タ ユ タ カ	1.2	8. 3	32.1	黄 中	1,544	1,090	100	27.6	70.6	
	3 7 9 0	1.5	8. 4	0.4	黄 中	1,836	1,230	113	32.0	70.7	
	P 3 7 3 2	1.0	8. 6	4.9	黄中～後	1,967	1,363	125	32.0	71.1	

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
滝 川 畜 試	D K 4 0 1	2.3	8.9	4.7	黄 初	1,596	1,156	112	26.2	72.4	1992～1994
	キ タ ュ タ カ	1.2	8.8	6.9	黄 中	1,470	1,033	100	23.3	70.2	
	3 7 9 0	1.7	8.9	1.1	黄 中	1,579	1,137	110	26.3	72.1	
	P 3 7 3 2	1.6	8.11	0.9	黄 中	1,588	1,140	110	25.5	71.8	

注) 北海道農試の倒伏は、1993～1994年の2か年の数値(1992年のP3732のみ強風に遭遇して倒伏したため除外)。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-40 (1996)。

(6) **ロイヤルデントオーロラ82**(系統名 TH9128)1997年
登録番号:(北海道)とうもろこし(飼)準輸交
第58号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1991年にタキイ種苗株式会社が導入し、1993年より「TH9128」の系統名で各種の試験を行い、1997年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より1～2日遅い。収穫時熟度は「ダイヘイゲン」並

かやや進み「ワセホマレ」並である。総体の乾物率は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並である。熟期は早生の中に属する。

2. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」より強い。

3. 発芽及び初期生育は「ダイヘイゲン」及び「ワセホマレ」並である。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイヘイゲン」より多い。推定乾物中TDN割合は「ダイヘイゲン」並かやや低い。

5. 稈長及び着雌穂高は「ダイヘイゲン」より高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝、道央北部、網走ならびに道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	オ ー ロ ラ 82	1.1	8.2	0.9	黄初～中	1,303	950	115	29.3	73.0	1994～1996
	ダイヘイゲン	1.1	8.1	2.8	黄 初	1,137	823	100	28.6	72.4	
	ワセホマレ	1.2	8.1	2.1	黄初～中	982	705	86	29.2	71.8	
上 川 農 試	オ ー ロ ラ 82	1.7	7.24	0.2	黄後～完	1,619	1,155	104	28.4	71.5	1994～1996
	ダイヘイゲン	1.7	7.25	5.5	黄中～後	1,553	1,108	100	28.1	71.5	
北 見 農 試	オ ー ロ ラ 82	1.8	8.10	0.6	糊 後	1,553	1,104	119	26.3	71.1	1994～1996
	ダイヘイゲン	1.7	8.8	3.3	糊 後	1,289	931	100	26.2	72.2	
	ワセホマレ	1.5	8.8	1.8	糊 後	1,227	880	94	26.1	71.7	
天 北 農 試	オ ー ロ ラ 82	1.2	8.20	0.0	糊中～後	1,287	909	120	25.0	70.1	1994～1996
	ダイヘイゲン	1.5	8.19	4.9	糊中～後	1,061	753	100	24.9	70.7	
	ワセホマレ	1.6	8.18	2.6	糊中～後	1,091	774	103	25.1	70.6	

参照 1) 北海道農政部編, 平成9年普及奨励ならびに指導参考事項, 9-11 (1997)。

(7) **ディアHT**（系統名 ディアHT）1997年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第59号
（種苗法）第5853号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデ
ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1992年に
ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1993年より「ディ
アHT」の系統名で各種の試験を行い、1997年に優良品
種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より1～2日早く
「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」
並かやや遅れ「ディア」並である。総体の乾物率は
「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並かやや高い。熟

期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」より
やや強い。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並である。
初期生育は「ヘイゲンミノリ」並かやや劣り、「ディ
ア」並かやや優れる。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よ
り多く「ディア」よりやや多い。推定乾物中TDN割
合は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並かやや低い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く
「ディア」並である。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディア」
より強く「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯
病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」
より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。
一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良- 5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 TDN (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	TDN (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	デ ィ ア H T	1.6	8. 3	0.0	黄 初	1,310	947	104	29.4	72.3	1994～1996
	ヘイゲンミノリ	1.3	8. 4	0.3	黄 初	1,257	912	100	29.0	72.6	
	デ ィ ア	1.7	8. 3	0.0	黄 初	1,282	929	102	28.3	72.4	
上 川 農 試	デ ィ ア H T	1.9	7.25	0.6	黄中～後	1,789	1,251	112	28.9	70.2	1994～1996
	ヘイゲンミノリ	1.9	7.27	1.2	黄 後	1,574	1,117	100	26.9	71.2	
	デ ィ ア	2.1	7.25	1.5	黄中～後	1,657	1,173	105	27.6	70.9	
北 見 農 試	デ ィ ア H T	1.8	8.11	0.4	糊 後	1,437	1,027	109	27.1	71.4	1994～1996
	ヘイゲンミノリ	1.6	8.13	3.3	糊 後	1,310	939	100	28.1	71.7	
	デ ィ ア	2.7	8.13	1.9	糊 後	1,354	965	103	26.4	71.1	

参照 1) 北海道農政部編，平成9年普及奨励ならびに指導参考事項，12－14（1997）。

(8) **ノルダ**（系統名 ノルダ）1998年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第60号

セールスポイント

初期生育が良好な早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのパイオニア社が育成したデ
ント種×（フリント種×デント種）の三系交配一代雑種
である。1993年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、
1995年より「ノルダ」の系統名で各種の試験を行い、
1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ダイヘイゲン」並か1～2日遅い。
収穫時熟度は「ダイヘイゲン」並である。総体の乾物
率は「ダイヘイゲン」より高い。熟期は早生の中に属
する。
2. 耐倒伏性は「ダイヘイゲン」並である。
3. 発芽は「ダイヘイゲン」よりやや遅い。初期生育は
「ダイヘイゲン」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ダイヘイゲン」並か
やや多い。推定乾物中TDN割合は「ダイヘイゲン」
よりやや低い。
5. 稈長は「ダイヘイゲン」よりやや高い。着雌穂高は

「ダイヘイゲン」より高い。雌穂先端部の子実は露出する。

6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝，網走ならびに根釧，道北の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ノ ル ダ	1.7	8. 3	4.5	黄 初	1,245	891	106	29.4	71.6	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.1	8. 3	3.5	黄 初	1,162	840	100	27.6	72.3	
北 見 農 試	ノ ル ダ	2.6	8.10	2.0	糊 中	1,358	960	98	25.5	70.7	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.7	8.10	1.5	糊 中	1,368	979	100	23.5	71.5	
根 釧 農 試	ノ ル ダ	1.6	8.26	0.0	糊 中	1,139	770	105	24.9	67.6	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.4	8.25	1.8	糊初～中	1,070	734	100	22.0	68.6	
天 北 農 試	ノ ル ダ	1.4	8.27	0.0	乳後～糊初	1,017	691	97	22.9	67.5	1995～1997
	ダイヘイゲン	1.0	8.25	0.0	糊 初	1,023	712	100	21.2	69.2	

参照 1) 北海道農政部編，平成10年普及奨励ならびに指導参考事項，38－39（1998）。

(9) ピリカ90（系統名 SL9305）1998年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準北海道
交第61号

セールスポイント

やや多収で耐倒伏性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は，雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1995年より「SL9305」の系統名で各種の試験を行い，1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期及び収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」並である。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並かやや

高い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。

3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅い。初期生育は「ヘイゲンミノリ」並である。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。

5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く，「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，道央北部及び網走内陸である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ピ リ カ 90	1.2	8. 6	0.3	糊後～黄初	1,358	986	110	27.4	72.6	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.1	8. 6	0.9	糊後～黄初	1,253	893	100	27.0	71.3	
	デ ィ ア	1.7	8. 6	0.9	糊後～黄初	1,295	925	104	27.1	71.4	
上 川 農 試	ピ リ カ 90	1.7	7.28	0.0	黄 中	1,739	1,236	105	28.9	71.0	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.7	7.27	0.5	黄中～後	1,659	1,177	100	27.1	71.1	
	デ ィ ア	2.0	7.25	0.0	黄 中	1,714	1,211	103	27.7	70.7	
北 見 農 試	ピ リ カ 90	1.9	8.14	1.0	糊 後	1,421	1,013	103	23.8	71.3	1995～1997
	ヘイゲンミノリ	1.5	8.14	4.8	糊 中	1,400	986	100	23.5	70.3	
	デ ィ ア	2.8	8.14	16.8	糊 後	1,361	951	96	23.7	69.9	

参照 1) 北海道農政部編，平成10年普及奨励ならびに指導参考事項，40－41（1998）。

(10) クラリカ（系統名 3893）1998年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第62号

セールスポイント

多収で、ごま葉枯病抵抗性が強い中生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1994年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1995年より「3893」の系統名で各種の試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「キタユタカ」より1日程度、「3790」より2日程度遅い。収穫時熟度は「キタユタカ」よりやや進み、「3790」並である。総体の乾物率は「キタ

ユタカ」より高く、「3790」並である。熟期は中生の中に属する。

2. 耐倒伏性は「キタユタカ」よりやや強く、「3790」並である。
3. 発芽及び初期生育は「キタユタカ」及び「3790」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「キタユタカ」より多く、「3790」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「キタユタカ」より高く、「3790」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「キタユタカ」より高く、「3790」並かやや高い。
6. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く、「3790」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「3790」並かやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	ク ラ リ カ	1.3	8. 5	0.0	黄初～中	1,738	1,278	114	30.2	73.6	1995,1997
	キ タ ユ タ カ	1.1	8. 6	0.3	黄初～中	1,537	1,117	100	26.7	72.7	
	3 7 9 0	1.5	8. 7	0.0	黄 中	1,708	1,241	111	30.4	72.7	
滝 川 畜 試	ク ラ リ カ	1.5	8. 9	1.6	黄初～中	1,781	1,279	109	26.7	71.9	1995～1997
	キ タ ユ タ カ	1.6	8.10	2.4	糊後～黄初	1,664	1,178	100	24.8	70.8	
	3 7 9 0	1.8	8.11	0.2	黄初～中	1,728	1,235	105	27.8	71.5	
上 川 農 試	ク ラ リ カ	2.1	7.30	0.5	黄中～後	1,926	1,391	116	29.3	72.3	1995～1997
	キ タ ユ タ カ	1.9	7.30	4.3	黄 中	1,693	1,202	100	26.3	71.0	
	3 7 9 0	1.9	7.31	0.0	黄 中	1,856	1,331	111	29.6	71.8	

参照 1) 北海道農政部編，平成10年普及奨励ならびに指導参考事項，36－37（1998）。

(11) KD354（系統名 KD354）1999年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第63号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は、ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1994年にカネコ種苗株式会社が導入し、1995年より「KD354」の系統名で各種の試験を行い、1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2～3日早く、「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ヘイゲンミノリ」並かやや高く、「ディア」並である。熟期は早生の晩に属する。
2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅い。初期生育は「ヘイゲンミノリ」並である。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」よりやや高い。

6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ヘイゲンミノリ」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。
一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	K D 3 5 4	1.4	8. 5	33.6	黄 初	1,241	896	108	25.9	72.2	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8. 8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8. 6	31.6	糊後～黄初	1,272	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	K D 3 5 4	1.4	8.14	17.6	糊後～黄初	1,446	1,015	100	23.5	70.2	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.14	14.1	糊 中	1,444	1,017	100	23.5	70.4	
上 川 農 試	K D 3 5 4	1.2	7.24	0.0	黄中～後	1,736	1,259	103	30.4	72.1	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.0	7.27	0.2	黄 中	1,703	1,222	100	29.1	71.8	
	デ ィ ア	1.7	7.24	0.0	黄 中	1,742	1,244	102	30.5	71.4	

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，29－30（1999）。

(12) ロイヤルデント85H（系統名 TH9434）1999年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第64号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は，ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の三系交配一代雑種である。1994年にタキイ種苗株式会社が導入し，1995年より「TH9434」の系統名で各種の試験を行い，1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2日程度早く，「ディア」並である。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ヘイ

ゲンミノリ」並で，「ディア」よりやや低い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。

3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」よりやや遅く，初期生育は「ヘイゲンミノリ」よりやや劣る。

4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」並である。

5. 稈長は「ヘイゲンミノリ」並で，着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高い。

6. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く，「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部，網走内陸及び道央北部である。
一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ロイヤルデント85H	1.6	8. 6	33.8	黄 初	1,192	859	104	24.1	72.1	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8. 8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8. 6	31.6	糊後～黄初	1,227	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	ロイヤルデント85H	2.4	8.14	22.5	糊後～黄初	1,485	1,043	103	23.3	70.3	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.4	8.14	14.1	糊 中	1,444	1,017	100	23.5	70.4	
上 川 農 試	ロイヤルデント85H	1.6	7.25	0.0	黄中～後	1,726	1,236	101	28.6	71.6	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.0	7.27	0.2	黄 中	1,703	1,222	100	29.1	71.8	
	デ ィ ア	1.7	7.24	0.0	黄 中	1,742	1,244	102	30.5	71.4	

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，30－31（1999）。

(13) ノベタ（系統名 ノベタ）2000年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第65号

セールスポイント

やや多収な早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのパイオニア社が育成したフリントデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1994年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1995年より「ノベタ」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ヘイゲンミノリ」より2～3日早く、「ディア」より1日早い。収穫時熟度は「ヘイゲンミノリ」及び「ディア」並である。総体の乾物率は「ヘ

イゲンミノリ」より高く、「ディア」並かやや高い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ヘイゲンミノリ」並である。
3. 発芽は「ヘイゲンミノリ」より遅く、初期生育は「ヘイゲンミノリ」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ヘイゲンミノリ」よりやや多い。推定乾物中TDN割合は「ヘイゲンミノリ」より高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「ヘイゲンミノリ」より高く、「ディア」並である。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ヘイゲンミノリ」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ヘイゲンミノリ」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、道央北部及び網走内陸である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (1良-5不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ノ ベ タ	1.4	8. 5	36.3	糊後～黄初	1,254	913	110	26.2	72.8	1996～1998
	ヘイゲンミノリ	1.1	8. 8	34.1	糊後～黄初	1,170	828	100	24.6	70.8	
	デ ィ ア	1.6	8. 6	31.6	糊後～黄初	1,227	908	110	26.0	71.4	
北 見 農 試	ノ ベ タ	1.8	8. 6	14.9	黄 初	1,460	1,061	100	28.6	72.7	1997～1999
	ヘイゲンミノリ	1.7	8. 9	14.1	糊 後	1,486	1,058	100	26.4	71.2	
上 川 農 試	ノ ベ タ	1.5	7.24	0.0	黄 中	1,791	1,304	105	32.0	72.8	1997～1999
	ヘイゲンミノリ	1.1	7.25	0.0	黄 中	1,709	1,240	100	31.0	72.1	
	デ ィ ア	1.8	7.24	0.0	黄 中	1,792	1,277	103	31.0	71.2	

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，49－51（2000）。

(14) ロイヤルデントアポロ90(系統名 TH9597)2000年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第66号

セールスポイント

耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴：本品種は、フランスのフランス・カナダセメンシス社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年にタキイ種苗株式会社が導入し、1996年より「TH9597」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディア」より1日遅い。収穫時熟度

は「ディア」並である。総体の乾物率は「ディア」よりやや高い。熟期は早生の晩に属する。

2. 耐倒伏性は「ディア」並かやや強い。
3. 発芽は「ディア」並で、初期生育は「ディア」よりやや劣る。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ディア」並である。乾雌穂重割合は「ディア」よりやや高く、推定乾物中TDN割合は「ディア」並かやや高い。
5. 稈長は「ディア」並で、着雌穂高は「ディア」より低い。
6. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ディア」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ディア」並である。

栽培適地と奨励態度

一般栽培に準じて栽培できる。

栽培適地は十勝中部，道央北部及び網走内陸である。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ア ポ ロ 90	6.6	8. 4	28.6	黄 初	1,313	954	99	27.6	72.6	1997～1999
	デ ィ ア	6.8	8. 2	31.6	黄 初	1,341	964	100	27.2	71.9	
北 見 農 試	ア ポ ロ 90	5.2	8. 7	15.4	黄 初	1,557	1,126	103	29.7	72.3	1997～1999
	デ ィ ア	6.0	8. 8	27.1	黄 初	1,543	1,098	100	27.7	71.1	
上 川 農 試	ア ポ ロ 90	6.7	7.25	0.0	黄 中	1,807	1,305	102	32.8	72.2	1997～1999
	デ ィ ア	7.3	7.24	0.0	黄 中	1,792	1,277	100	31.0	71.2	

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，52－54（2000）。

(15) DK483（系統名 SH6547）2000年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第67号

セールスポイント

多収で，耐倒伏性がやや強い晩生品種である。

来歴 本品種は，アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年に雪印種苗株式会社が導入し，1997年より「SH6547」の系統名で各種の試験を行い，2000年に優良品種となった。

2．耐倒伏性は「P3732」並かやや強い。

3．発芽は「P3732」よりやや早く，初期生育は「P3732」より優れる。

4．乾総重及び推定TDN収量は「P3732」より多い。乾雌穂重割合は「P3732」と同程度である。開花期前後の多雨・寡照・高温条件により，有効雌穂割合が低下することがある。その程度は「P3732」並である。

5．稈長は「P3732」より短く，着雌穂高は「P3732」並かやや低い。

6．すす紋病抵抗性は「3540」より強く，「P3732」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「3540」及び「P3732」と同程度である。

特性概要

1．絹糸抽出期は「P3732」とほぼ同じである。収穫時熟度及び総体の乾物率は「P3732」と同程度である。熟期は晩生の早に属する。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	D K 4 8 3	7.0	8. 7	25.5	黄初～中	1,776	1,269	111	26.8	71.2	1997～1999
	P 3 7 3 2	5.8	8. 8	31.5	黄 中	1,636	1,146	100	26.4	69.3	
滝 川 畜 試	D K 4 8 3	8.0	8.16	11.4	黄 初	1,797	1,279	100	23.3	71.1	1997～1999
	P 3 7 3 2	6.2	8.16	18.1	黄 中	1,765	1,280	100	25.7	72.5	
道 南 農 試	D K 4 8 3	7.5	8. 7	33.5	黄 中	1,800	1,291	117	32.6	71.8	1997～1999
	P 3 7 3 2	6.3	8. 7	34.0	黄 中	1,558	1,107	100	29.6	71.1	

注) 滝川畜試の1999年は適期播種ができなかったため，倒伏のみ1997～1999年の平均とし，その他の形質は1997～1998年の平均とした。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，55－57（2000）。

(16) **DK566**（系統名 DK566）2000年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第68号

セールスポイント

耐倒伏性およびごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのデカルブ・プラント・ジェネティクス社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1995年にカネコ種苗株式会社が導入し、1997年より「DK566」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3540」より約1日早い。収穫時熟度

は「3540」並かやや遅れる。総体の乾物率は「3540」並かやや高い。熟期は晩生の中に属する。

2. 耐倒伏性は「3540」並である。
3. 発芽は「3540」並で、初期生育は「3540」並かやや劣る。
4. 乾総重は「3540」並かやや少なく、推定TDN収量は「3540」並である。乾雌穂重割合は「3540」より高い。
5. 稈長及び着雌穂高は「3540」並である。
6. すず紋病抵抗性は「3540」より強く、「P3732」と同程度である。ごま葉枯病抵抗性は「3540」及び「P3732」より強い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	D K 5 6 6	5.4	8.12	29.6	糊後～黄初	1,866	1,347	99	25.6	72.2	1997～1999
	3 5 4 0	6.5	8.13	30.1	黄初～中	1,928	1,360	100	26.3	70.5	
滝 川 畜 試	D K 5 6 6	8.9	8.19	27.2	黄初～中	1,925	1,391	97	23.6	77.2	1997～1999
	3 5 4 0	7.3	8.19	17.0	黄 中	2,032	1,441	100	23.6	70.8	
道 南 農 試	D K 5 6 6	6.5	8. 9	34.4	黄 中	1,826	1,315	103	30.2	72.1	1997～1999
	3 5 4 0	7.8	8.11	33.3	黄 中	1,810	1,272	100	30.0	70.3	

注) 滝川畜試の1999年は適期播種ができなかったため、倒伏のみ1997～1999年の平均とし、その他の形質は1997～1998年の平均とした。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，58－60（2000）。

(17) **モノポール85**（系統名 TH9623）2001年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第69号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性が強く、すず紋病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種はドイツのクラインワンツレーベン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1996年にタキイ種苗株式会社が導入し、1998年より「TH9623」の系統名で各種の試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディア」より約1～2日早く、収穫

時熟度は「ディア」よりやや進む。総体の乾物率は「ディア」並である。熟期は早生の晩である。

2. 初期生育は「ディア」より優れ、稈長は「ディア」よりやや高く、着雌穂高は「ディア」並である。耐倒伏性は「ディア」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディア」よりやや強く、ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや弱く、「ディアHT」より弱い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディア」より多く、乾雌穂重割合は「ディア」よりやや高い。推定乾物中T D N割合は「ディア」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部、網走内陸及び道央北部地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	モ ノ ボ ル 85	7.3	8. 4	4.7	黄 初	1,583	1,155	105	29.2	72.9	1998～2000
	デ ィ ア	5.5	8. 5	11.6	黄 初	1,526	1,105	100	29.8	72.4	
十 勝 農 試	モ ノ ボ ル 85	7.1	7.30	33.3	黄初～中	1,467	1,074	109	25.6	73.2	1998～2000
	デ ィ ア	5.7	7.31	30.8	黄 初	1,348	989	100	26.2	73.3	
上 川 農 試	モ ノ ボ ル 85	8.5	7.21	1.1	黄中～後	1,853	1,338	110	31.3	72.2	1998～2000
	デ ィ ア	6.6	7.23	0.2	黄 中	1,718	1,221	100	30.9	71.1	

参照 1)北海道農政部編，平成13年普及奨励ならびに指導参考事項，40－42（2001）。

(18) 35G86（系統名 X1045T）2001年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第70号

セールスポイント

多収で，耐倒伏性がやや強く，ごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は，アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1996年にホクレン農業協同組合連合会が導入し，1998年より「X1045T」の系統名で各種の試験を行い，2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「P3732」より約1日遅く，収穫時熟度及び総体の乾物率はほぼ「P3732」並である。熟期は晩生の早である。
2. 初期生育は「P3732」より優れ，稈長および着雌穂高は「P3732」より高い。耐倒伏性はほぼ「P3732」並である。
3. すず紋病抵抗性及びごま葉枯病抵抗性は「3540」より強く，「P3732」並である。
4. 乾総重，推定TDN収量は「P3732」より多く，乾雌穂重割合は「P3732」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 海 道 農 試	3 5 G 8 6	5.6	8. 7	31.1	黄 初	2,013	1,447	124	30.0	71.9	1998～2000
	P 3 7 3 2	4.5	8. 6	31.5	黄初～中	1,665	1,171	100	27.0	69.6	
畜 試 滝 川 試 験 地	3 5 G 8 6	7.7	8.11	33.0	黄 中	2,078	1,503	106	27.3	72.4	1998～2000
	P 3 7 3 2	6.1	8.10	17.7	黄 中	1,925	1,418	100	27.4	73.7	
道 南 農 試	3 5 G 8 6	7.8	8. 5	63.1	黄 中	1,788	1,287	115	30.9	72.0	1998～2000
	P 3 7 3 2	6.3	8. 4	65.2	黄 中	1,562	1,122	100	29.6	71.9	

注）畜試滝川試験地は倒伏のみ1998年～2000年の3か年平均値，その他の形質は1999年を除く2か年平均値。

参照 1)北海道農政部編，平成13年普及奨励ならびに指導参考事項，43－45（2001）。

(19) カリメラ（系統名 カリメラ）2002年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第72号

セールスポイント

多収で耐倒伏性が強い早生品種である。

来歴 本品種は，アメリカのパイオニア社が育成したデ

ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1997年にホクレン農業協同組合連合会が導入し，1999年より「カリメラ」の系統名で各種の試験を行い，2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より1日遅く，収穫時

熟度及び総体の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

- 初期生育は「ディアHT」よりやや劣り、稈長及び着雌穂高は「ディアHT」より高い。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
- すす紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く、「ディアHT」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く、「ディアHT」よりやや強

い。

- 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」より多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部及び網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	カ リ メ ラ	5.1	8. 4	7.8	黄 後	1,734	1,267	113	30.1	73.1	1999～2001
	デ ィ ア H T	5.4	8. 3	0.0	黄 中	1,550	1,125	100	29.1	72.6	
十 勝 農 試	カ リ メ ラ	4.5	7.29	0.6	黄 中	1,570	1,155	111	27.9	73.6	1999～2001
	デ ィ ア H T	5.1	7.29	0.0	黄初～中	1,426	1,045	100	26.9	73.3	
上 川 農 試	カ リ メ ラ	6.5	7.23	0.9	黄 中	1,790	1,242	102	29.6	69.3	1999～2001
	デ ィ ア H T	7.2	7.23	0.5	黄 中	1,737	1,218	100	29.5	70.1	

参照 1)北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，29－30（2002）。

(20) ジェレミス（系統名 JEREMIS）2002年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第73号

セールスポイント

多収で、耐倒伏性が強く、すす紋病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、フランスのポー・セマース社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1997年に株式会社ゲン・コーポレーションが導入し、1999年より「JEREMIS」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

- 絹糸抽出期は「DK300」より2日早く、収穫時熟

度は「DK300」並である。総体の乾物率は「DK300」よりやや低い。熟期は中生の早である。

- 初期生育は「DK300」より優れ、稈長及び着雌穂高は「DK300」より高い。耐倒伏性は「DK300」並である。
- すす紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く、「DK300」よりやや強い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」及び「DK300」並である。
- 乾総重、推定TDN収量は「DK300」より多く、乾雌穂重割合は「DK300」より高い。推定乾物中TDN割合は「DK300」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ジ ェ レ ミ ス	6.2	8. 4	0.6	黄 中	1,638	1,202	109	27.9	73.5	1999～2001
	D K 3 0 0 0	5.0	8. 6	6.7	黄 中	1,518	1,102	100	28.1	72.6	
十 勝 農 試	ジ ェ レ ミ ス	5.9	7.31	0.3	黄初～中	1,611	1,182	110	26.3	73.4	1999～2001
	D K 3 0 0 0	4.9	8. 2	0.0	黄 初	1,472	1,079	100	26.8	73.3	
上 川 農 試	ジ ェ レ ミ ス	8.0	7.24	1.9	黄中～後	1,917	1,419	105	34.8	74.2	1999～2001
	D K 3 0 0 0	6.4	7.27	0.5	黄 中	1,837	1,347	100	34.5	73.2	

参照 1)北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，31－32（2002）。

(21) **36A43**（系統名 36A43）2002年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第71号

セールスポイント

やや多収で、すす紋病抵抗性がやや強く、ごま葉枯病抵抗性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は、アメリカのパイオニア社が育成したデント種×デント種の単交配一代雑種である。1997年にホクレン農業協同組合連合会が導入し、1999年より「36A43」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3845」より1～2日遅く、収穫時熟

度は「3845」よりやや遅れる。総体の乾物率は「3845」並かやや低い。熟期は中生の晩である。

2. 初期生育は「3845」よりやや劣る。稈長は「3845」並で着雌穂高は「3845」より高い。耐倒伏性は「3845」よりやや強い。

3. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」並かやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」よりやや強い。

4. 乾総重、推定TDN収量は「3845」よりやや多い。乾雌穂重割合は「3845」よりやや低い。開花期前後の多雨・少日照条件により有効雌穂割合が低下することがある。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 農 研 セ ン タ ー	3 6 A 4 3	6.3	8. 6	2.5	黄 中	1,971	1,427	110	30.9	72.4	1999～2001
	3 8 4 5	7.5	8. 3	19.5	黄初～中	1,788	1,302	100	30.1	72.8	
上 川 農 試	3 6 A 4 3	6.6	8. 1	14.4	黄初～中	2,086	1,487	100	31.3	71.4	1999～2001
	3 8 4 5	7.5	7.30	14.8	黄中～後	2,034	1,483	100	33.9	72.9	
畜 試 滝 川 試 験 地	3 6 A 4 3	5.5	8. 9	24.0	黄後	1,821	1,317	107	28.1	72.2	1999～2001
	3 8 4 5	6.5	8. 7	49.0	黄後	1,681	1,229	100	29.5	73.0	

注)畜試滝川試験地は倒伏のみ1999年～2001年の3か年平均値、その他の形質は1999年を除く2か年平均値。

参照 1)北海道農政部編、平成14年普及奨励ならびに指導参考事項、33-34 (2002)。

(22) **おおぞら**（系統名 北交55号）2002年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）北海道交
第71号
（農水省）とうもろこし農林交56号
（種苗法）第 号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性が強く、ごま葉枯病抵抗性がやや強い中生品種である。

来歴 本品種は、独立行政法人北海道農業研究センターが、耐倒伏性が強く、初期生育に優れ登熟の早い安定・多収な中生品種の育成を目標に、「Ho57」を種子親、「Ho49」を花粉親として育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に「月交580」、1999年より「北交55号」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「3790」より1日遅く「3845」並で、

総体の乾物率は「3790」並である。熟期は中生の中である。

2. 初期生育は「3790」より優れ「3845」並である。稈長は「3790」より高く、「3845」よりやや高い。着雌穂高は「3790」及び「3845」より高い。耐倒伏性は「3790」及び「3845」より強い。

3. すず紋病抵抗性は「キタユタカ」よりやや強く「3790」及び「3845」より弱い。ごま葉枯病抵抗性は「キタユタカ」より強く「3845」並で、「3790」より弱い。

4. 乾総重、推定TDN収量は「3790」及び「3845」よりやや多い。乾雌穂重割合は「3790」及び「3845」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央（北部を除く）及び道南地域である。一般栽培に準じて栽培できる。密植適性は比較的高いが、栽植密度は6,800～8,000本/10 a程度とする。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)		
北 農 研 セ ン タ ー	お お ぞ ら	8.4	8.4	9.0	黄 中	1,863	1,344	106	29.6	1997～2001
	3 7 9 0	6.9	8.5	32.3	黄 中	1,765	1,273	100	29.7	
	3 8 4 5	7.5	8.5	37.9	黄初～中	1,809	1,318	104	30.0	
上 川 農 試	お お ぞ ら	7.2	7.31	3.0	黄中～後	2,052	1,458	100	34.5	1998～2001
	3 7 9 0	7.4	7.28	10.4	黄中～後	1,995	1,455	100	34.0	
	3 8 4 5	7.7	7.29	10.7	黄中～後	2,028	1,479	102	33.6	
畜 試 滝 川 試 験 地	お お ぞ ら	6.7	8.8	12.7	黄 後	1,712	1,238	102	30.3	2000～2001
	3 7 9 0	4.5	8.7	24.7	黄中～後	1,676	1,215	100	29.7	
	3 8 4 5	6.5	8.8	57.3	黄中～後	1,680	1,228	101	29.4	

参照 1)北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，35－36（2002）。

2)濃沼圭一 等，北海道農研研報，180，1－17(2004)。

②3 ビスカ（系統名 X0826X）2003年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第74号

セールスポイント

やや多収で，耐倒伏性及びすす紋病抵抗性がやや強い
早生品種である。

来歴 本品種は，アメリカのパイオニア社が育成したデ
ント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に
ホクレン農業協同組合連合会が導入し，1999年より
「X0826X」の系統名で各種の試験を行い，2003年に優
良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より4日遅く，収穫時

熟度は「オーロラ82」よりやや遅れる。総体の乾物率
は「オーロラ82」よりやや高い。熟期は早生の中であ
る。

2. 初期生育は「オーロラ82」並で，稈長および着雌穂
高は「オーロラ82」より高い。耐倒伏性は「オーロラ
82」並である。

3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」および「オーロ
ラ82」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲ
ン」よりやや強く「オーロラ82」よりやや弱い。

4. 乾総重，推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや
多く，乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「オー
ロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝及び網走地域である。一般
栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 生 期 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽 出 期 (月日)	倒 伏 (%)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ビ ス カ	6.3	8.10	5.0	黄 中	1,651	1,177	103	24.5	71.3	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.9	8.8	0.0	黄 中	1,589	1,139	100	22.6	71.6	
十 勝 農 試	ビ ス カ	5.7	8.2	0.2	黄 初	1,622	1,179	107	27.7	72.7	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.7	7.29	2.0	黄初～中	1,512	1,102	100	25.7	72.9	
上 川 農 試	ビ ス カ	7.2	7.26	0.5	黄初～中	1,936	1,398	109	29.8	72.2	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	7.5	7.23	0.0	黄中～後	1,778	1,283	100	28.0	72.2	

参照 1)北海道農政部編，平成15年普及奨励ならびに指導参考事項，25－26（2003）。

(24) **リッチモンド**（系統名 HE9815）2003年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第75号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性がやや強く、ごま葉枯病抵抗性が強い早生品種である。

来歴 本品種は、フランスのリマグレイン社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1998年に雪印種苗株式会社が導入し、2000年より「HE9815」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「オーロラ82」より1日遅く、収穫時

熟度は「オーロラ82」並である。総体の乾物率は「オーロラ82」より高い。熟期は早生の中である。

2. 初期生育は「オーロラ82」並である。稈長は「オーロラ82」並で、着雌穂高は「オーロラ82」よりやや低い。耐倒伏性は「オーロラ82」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」よりやや強く「オーロラ82」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「オーロラ82」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「オーロラ82」よりやや多く、乾雌穂重割合は「オーロラ82」並かやや低い。推定乾物中TDN割合は「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部、十勝及び網走地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	リ ッ チ モ ン ド	5.7	8. 9	0.0	黄 中	1,635	1,158	100	26.0	70.8	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.9	8. 7	0.0	黄 中	1,610	1,155	100	22.4	71.6	
十 勝 農 試	リ ッ チ モ ン ド	5.8	7.28	0.3	黄 中	1,637	1,202	109	30.1	73.4	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	5.7	7.29	2.0	黄初～中	1,512	1,102	100	25.7	72.9	
上 川 農 試	リ ッ チ モ ン ド	7.2	7.23	0.0	黄 中	1,987	1,436	112	31.9	72.3	2000～2002
	オ ー ロ ラ 82	7.5	7.23	0.0	黄中～後	1,778	1,283	100	28.0	72.2	

参照 1)北海道農政部編，平成15年普及奨励ならびに指導参考事項，27－28（2003）。

(25) **SL9851**（系統名 SL9851）2003年
登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準北海
道交第76号

セールスポイント

やや多収で、耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。2000年より「SL9851」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より3日遅いが、低温条件ではやや遅れることがある。収穫時熟度及び総体

の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

2. 初期生育は「ディアHT」よりやや劣る。稈長は「ディアHT」よりやや高く、着雌穂高は「ディアHT」並である。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「ディアHT」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディアHT」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」よりやや多く、乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並かやや低い。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部及び網走内陸の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	S L 9 8 5 1	5.1	8.11	1.7	黄 初	1,522	1,070	101	24.4	70.3	2000～2002
	デ ィ ア H T	5.4	8. 7	0.0	黄 中	1,482	1,057	100	25.9	71.3	
十 勝 農 試	S L 9 8 5 1	4.2	8. 2	0.7	黄初～中	1,561	1,125	107	26.6	72.0	2000～2002
	デ ィ ア H T	5.0	7.30	0.0	黄 初	1,447	1,052	100	25.8	72.7	
上 川 農 試	S L 9 8 5 1	5.8	7.26	1.4	黄 中	1,817	1,316	109	28.2	72.4	2000～2002
	デ ィ ア H T	6.6	7.24	1.4	黄初～中	1,708	1,203	100	27.7	70.3	

参照 1)北海道農政部編，平成15年普及奨励ならびに指導参考事項，29－30（2003）。

(26) TH9861（系統名 TH9861）2003年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）準輸交
第77号

セールスポイント

多収で，耐倒伏性がやや強く，病害抵抗性が強い中生品種である。

来歴 本品種は，フランスカナダ・セメンセス社が育成したフリント種×デント種の単交配一代雑種である。1998年にタキイ種苗株式会社が導入し，2000年より「TH9861」の系統名で各種の試験を行い，2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ロイヤルデント90H」より約2日遅

く，収穫時熟度及び総体の乾物率は「ロイヤルデント90H」並である。熟期は中生の早である。

2. 初期生育は「ロイヤルデント90H」並で，稈長及び着雌穂高は「ロイヤルデント90H」より高い。耐倒伏性は「ロイヤルデント90H」よりやや強い。
3. すず紋病抵抗性は「ロイヤルデント90H」及び「キタユタカ」より強い。ごま葉枯病抵抗性は「ロイヤルデント90H」よりやや強く，「キタユタカ」より強い。
4. 乾総重及び推定TDN収量は「ロイヤルデント90H」より多く，乾雌穂重割合は「ロイヤルデント90H」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は十勝中部の気象条件の良好な地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	T H 9 8 6 1	5.4	8. 1	0.5	糊後～黄初	1,572	1,158	108	24.4	73.7	2000～2002
	ロイヤルデント90H	5.9	7.28	1.3	黄 初	1,460	1,069	100	25.6	73.2	
畜 試 滝 川 試 験 地	T H 9 8 6 1	6.3	8. 5	1.7	黄 中	1,530	1,120	110	30.2	73.1	2000～2002
	ロイヤルデント90H	6.0	8. 4	2.3	黄 中	1,401	1,020	100	26.8	72.8	
北 農 研 セ ン タ ー	T H 9 8 6 1	7.8	7.29	0.0	黄初～中	1,617	1,179	111	27.2	72.0	2000～2002
	ロイヤルデント90H	8.0	7.27	0.0	黄初～中	1,459	1,063	100	27.1	72.9	

参照 1)北海道農政部編，平成15年普及奨励ならびに指導参考事項，31－32（2003）。

(27) チベリウス（系統名 HK9851）2004年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）輸交
第26号

セールスポイント

多収で，耐倒伏性及びごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は，ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1999年にホクレン農業協同組合連合会が導入し，2000年より「HK9851」の系統名で各種の試験を行い，2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期および収穫時熟度は「オーロラ82」並で、総体の乾物率は「オーロラ82」よりやや高い。熟期は「オーロラ82」と同じ早生の中である。
2. 初期生育は「オーロラ82」並である。稈長は「オーロラ82」よりやや高く、着雌穂高は「オーロラ82」並である。耐倒伏性は「オーロラ82」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」並で「オーロラ82」よりやや弱い。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイ

ゲン」及び「オーロラ82」より強い。

4. 乾総重、推定TDN収量は「オーロラ82」より多く、乾雌穂重割合は「オーロラ82」よりやや高い。推定乾物中TDN 割合は「オーロラ82」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝及び網走地域である。すす紋病抵抗性が「オーロラ82」よりやや弱いので，連作を避け，適正な肥培管理を行う。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	チ ベ リ ウ ス	5.9	8. 8	15.0	黄初～中	1,699	1,225	106	25.7	72.1	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	6.0	8. 9	0.0	黄初～中	1,610	1,157	100	23.6	71.7	
十 勝 農 試	チ ベ リ ウ ス	5.6	8. 2	0.7	黄初	1,755	1,274	110	27.6	72.6	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	5.8	8. 2	2.0	黄初	1,608	1,155	100	26.7	71.9	
上 川 農 試	チ ベ リ ウ ス	7.1	7.23	0.0	黄初～中	2,073	1,495	117	28.1	72.1	2001～2003
	オ ー ロ ラ 82	7.1	7.24	0.0	黄中	1,784	1,283	100	25.7	71.9	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，20－21（2004）。

(28) ネオ85（系統名 TH9952）2004年

登録番号：（北海道）とうもろこし（飼）輸交
第27号

セールスポイント

やや多収で，耐倒伏性が強く，ごま葉枯病抵抗性がやや強い早生品種である。

来歴 本品種は，ドイツのクラインワンツレーベン育種株式会社が育成したデント種×フリント種の単交配一代雑種である。1999年にタキイ種苗株式会社が導入し，2000年より「TH9952」の系統名で各種の試験を行い，2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 絹糸抽出期は「ディアHT」より2日遅く，収穫時

熟度及び総体の乾物率は「ディアHT」並である。熟期は早生の晩である。

2. 初期生育は「ディアHT」並である。稈長及び着雌穂高は「ディアHT」並である。耐倒伏性は「ディアHT」並である。
3. すず紋病抵抗性は「ダイヘイゲン」より強く「ディアHT」並である。ごま葉枯病抵抗性は「ダイヘイゲン」及び「ディアHT」より強い。
4. 乾総重、推定TDN収量は「ディアHT」よりやや多く，乾雌穂重割合及び推定乾物中TDN割合は「ディアHT」並である。

栽培適地と奨励態度

栽培適地は道央北部，十勝中部及び網走内陸地域である。一般栽培に準じて栽培できる。

試験場名	品 種 名	初 期 生 育 (9極良-1極不良)	絹 糸 抽出期 (月日)	倒 伏 (%)	収穫時 熟 度	10 a 当り			総 体 乾物率 (%)	乾物中 T D N (%)	試験年次
						乾総重 (kg)	T D N (kg)	同左比 (%)			
北 見 農 試	ネ オ 8 5	4.7	8.13	0.0	黄 初	1,550	1,090	104	23.0	70.4	2001～2003
	デ ィ ア H T	5.5	8. 9	0.0	黄 初	1,484	1,051	100	24.4	70.8	
十 勝 農 試	ネ オ 8 5	4.3	8. 5	0.7	黄 初	1,664	1,196	108	26.3	71.8	2001～2003
	デ ィ ア H T	4.9	8. 3	0.0	黄 初	1,557	1,111	100	26.8	71.4	
上 川 農 試	ネ オ 8 5	6.0	7.26	0.0	黄初～中	2,011	1,428	113	25.8	71.0	2001～2003
	デ ィ ア H T	6.1	7.25	0.0	黄初～中	1,772	1,260	100	26.4	71.1	

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，22-23（2004）。